

教育学系とJICA筑波の国際教育 協力プロジェクトの実績と意義

—2008・9・10年度JICA集団研修「教員養成課程における
教育改善方法の検討」(中南米地域)より—

筑波大学 人間系 教授
教育研究科長
田中 統治

1. はじめに

◎ 国際教育協力プロジェクトの実績報告

- ・ 教育学系が、文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室海外協力政策係と本学CRICED(国際協力教育開発研究センター)からの依頼を受け協力。
- ・ 3年にわたって行われる、JICA集団研修「教員養成課程における教育改善方法の検討」(中南米地域)におけるとくに1・2年次の報告。

◎ 主な事業内容

- ・ ドミニカ共和国、コロンビア、ボリビア、ホンジュラスの教員養成機関の幹部スタッフ5名を対象に、約1か月に及ぶ研修プログラムを提供するものである。

2. 国際教育協力プロジェクトに取り組む意義

◎ 日本の教員養成課程や教職世界のもつ特徴を相対的に考える契機

- ・ 中南米諸国の研修員に対し、「日本の教育経験をどう再構成して伝えるか」
⇒ 我々が日頃「自明のこと」としてきた前提を問い直す上で有意義であった。
- ・ 教育用語や専門用語をわかりやすくかみ砕いて説明する作業
⇒ 通常の教育活動とは異質であるがゆえに、新たな発見や気づきがあった。

◎ 教師教育に携わる者同士のグローバルな連帯感

- ・ 講義での質疑応答は、異文化理解というより、教師教育に携わる者同士が共有する「笑いによる意味理解」
⇒ グローバルな連帯感が生み出される。

この連帯感こそがこれからの教育学の方向性を暗示しているように思う。

3. JICA 集団研修の概要

1) 研修期間及び研修員数

2008年度

期間： 11月17日(月)～12月16日(火)

研修員数： 5名 ボリビア 男性1名
 コロンビア 男女各1名
 ドミニカ共和国 女性2名
 ホンジュラス 男性1名

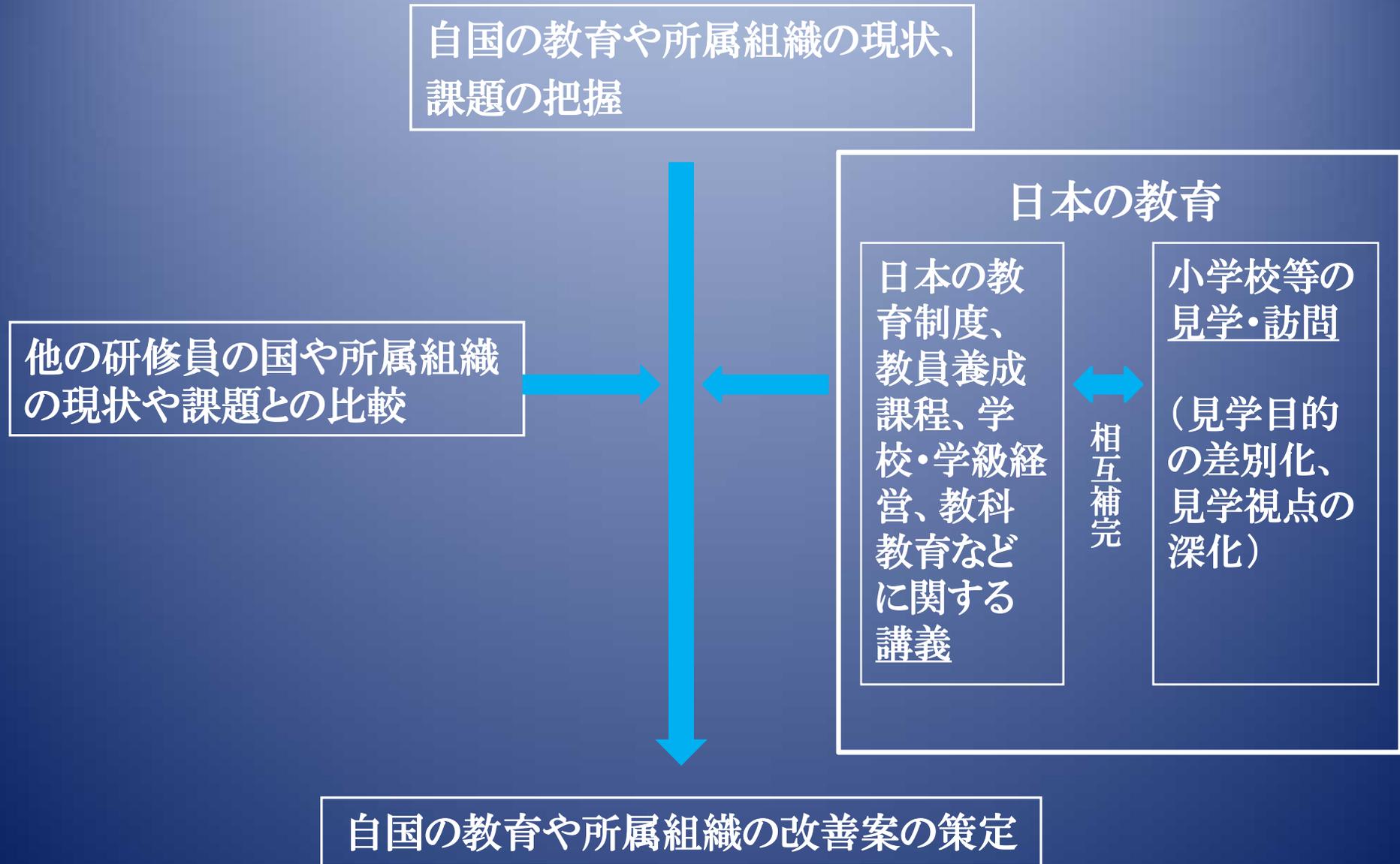
2009年度

期間： 10月28日(水)～11月24日(火)

研修員数： 5名 ボリビア 男性1名
 コロンビア 男女各1名
 ドミニカ共和国 女性2名

なお、2010年度はドミニカ共和国及びコロンビアの2か国6名が参加した。

2) 研修内容の概念図



3)研修の流れと単元目標

- ① 自国の教員養成教育や所属組織の教員養成課程の現状、課題の整理
- ② 日本における教育の概要を、その根底にある文化・社会的背景とともに理解する。
- ③ 日本の教員養成課程について理解する。
- ④ 自国での教員養成の質の向上のためにアクションプランを作成する。
- ⑤ 所属組織が情報共有のための機会を設定し帰国報告会を実施する。
- ⑥ 所属組織がアクションプランの内容を試行し、その結果をファイナルレポートとして提出する。

事後、ファイナルレポートを基にテレビ会議を行い、成果と改善点を話し合う。

4. 研修の様子

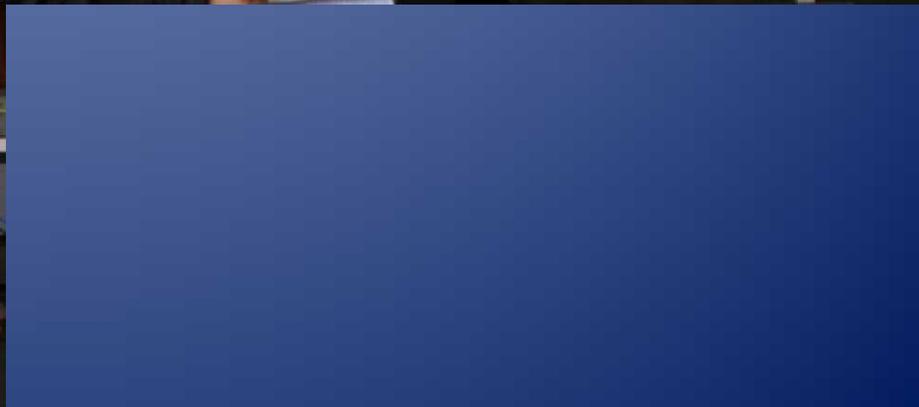
2008年度



2009年度



濱田教授：「学級経営と教師の仕事」における質疑応答の事例



5. おわりに

この国際プロジェクトは、短期間に集中して各国の教員養成課程の改善アクションプランに役立てられることをねらいとしている。

- 成果

2008年度…研修員が日本の授業研究に強く関心を持った。

2009年度…部を委託した研修も含め、国別に深い学びがあった。

⇒ 報告の実績を多面的に評価しながら、次年度計画の改良を図っていく。

私たちにとって通常の業務に加えてかなりの負担となったことは事実であるが、その負担を超えてなお国際教育協力をチームで取り組む意義を実感した。